

日本リスクマネジメント学会 活動の記録

2023年（令和5年）4月1日～2024年（令和6年）3月31日

◎日本リスクマネジメント学会 理事会 *電子メールによる持ち回り理事会
2023年3月7日 以下の議案を承認した。

議案

議案1 関西部会・会員総会の日程

日程・場所 2023年6月17日（土） 関西大学 社会安全学部

主たる内容 安部誠治会員の特別講演「鉄道事故とリスクマネジメント」
（その他募集）とする。

議案2 第48回全国大会・創立45周年記念大会

日程・場所 2023年9月30日（土） 阪南大学 あべのハルカスキャンパス
（テーマ 募集 報告者 募集）とする

議題3 役員の任期の延長

役員の任期満了日を2023年3月31日から会員総会を行う2023年6月17日に延長する。

議案4 後援行事

2023年3月24日 大阪倶楽部ホールで開催される第3回中小企業・ファミリー企業の事業承継・日仏シンポジウム（主催 科学研究費基盤(B)）を後援する。

報告・連絡事項

1. 『危険と管理』第54号 4月15日完成し、関西部会・会員総会の案内と共に会員に送付する。
2. 著作目録原稿を募集する。3月15日まで。
3. 関西部会、関東部会（冬開催）の報告希望を募る。
4. 第48回大会・創立45周年記念大会のテーマ、報告希望を募る。
5. 行事の共催、後援依頼を歓迎する。

◎日本リスクマネジメント学会 後援行事

関西大学経済・政治研究所 関西ファミリービジネスのBCMと東アジア戦略
研究班公開研究会「リスクマネジメント視点のグローバル経営—日本とアジア
の関係から—」

『リスクマネジメント視点のグローバル経営 —日本と東アジアの関係から』
(上田和勇編著、小林守・高野仁一・岩坂健志・田島真弓他著、2023年3月、同
文館出版)が出版された。本研究会では、同書の著者を招き、日本企業のアジア
を舞台にしたグローバル戦略について、BCM(事業継続マネジメント)とリス
クマネジメントの視点から講演いただき、ディスカッションした。

日時 2023年6月16日(金) 13:30-16:20

場所 関西大学 高槻ミュージックキャンパス M705教室

Zoom配信あり

問題提起・司会 13:30-13:45

「日本企業の東アジア戦略とリスクマネジメント」

亀井克之 関西ファミリービジネスの東アジア戦略研究班 主幹・関西大学
社会安全学部 教授・博士(商学 大阪市立大学)

第1講演 13:45-14:45

「日本企業の異文化リスクのマネジメントに関する諸問題—ベトナム、台湾」
上田和勇 専修大学 名誉教授・日本リスクマネジメント学会 理事長・博
士(商学 早稲田大学)

休憩

第2講演 14:50-15:50

「台湾企業のレジリエンス」

田島真弓 専修大学 商学部教授・博士(社会学 国立台湾大学)

*日本リスクマネジメント学会会員。国立台湾大学准教授を経て現職。『リ
スクマネジメント視点のグローバル経営—日本と東アジアの関係から』の
第7章「東アジアの地政学リスクマネジメント —台湾の市民参画型産業
発展モデル—」と第8章「日本の製造業の東アジア戦略とリスクマネジメ
ント —川上産業の競争力とグローバル・サプライチェーン」執筆。

ディスカッション 15:50-16:20

◎日本リスクマネジメント学会 理事会・評議員会 会員総会

2023年6月17日 関西部会 開催時

関西大学 高槻ミュージックキャンパス M706教室

11:45～12:30 理事会 評議員会

12:30～12:50 会員総会

理事会：出席者8人(会場4人 Zoom4人)委任状5 計13人／構成員17人：
成立

評議員会：出席者9人(会場2人 Zoom7人)委任状8 17人／構成員23人：
成立

会員総会：出席者56人(会場23人 Zoom33人)委任状47 103人／構成員180人：
成立

審議事項 理事会・評議員会、会員総会において共に、以下の審議事項を承認した。

議案1：役員人事案

日本リスクマネジメント学会 役員 (2023年6月17日～2025年3月31日)

理事21人

理事・会長	上田 和勇 (専修大学名誉教授)
理事 長	亀井 克之 (関西大学)
副 理 事 長	奈良由美子 (放送大学)
常務理事・事務局長 (新任)	松下幸史朗 (阪南大学)
理事・事務局長代理	八木 良太 (文教大学)
理事・事務局長代理 (新任)	桑名 謹三 (関西大学)
常務理事	戸出 正夫 (元白鷗大学)
理 事	大橋 正彦 (元大阪商業大学)
理 事	大羽 宏一 (元尚絅大学)
理 事	尾久 裕紀 (大妻女子大学)
理 事	江尻 行男 (元東北福祉大学)
理 事	川崎 和治 (元沖縄大学)
理 事	城戸 善和 (元熊本学園大学)
理 事	菅原 好秀 (東北福祉大学)
理 事	高野 一彦 (関西大学)
理 事	藤江 俊彦 (元千葉商科大学)

理事	藤川 信夫 (日本大学)
理事	森 幸弘 (元下関市立大学)
理事 (新任)	飯嶋 香織 (関西国際大学)
理事 (新任)	岩坂 健志 (新潟食糧農業大学)
理事 (新任)	小林 守 (専修大学)
評議員 26人	
会長	竹本 恒雄 (元関西大学)
副会長	石井 至 (札幌大学、石井兄弟社)
副会長	篠原 壽一 (篠原産業)
評議員・監事	中居 芳紀 (東京海上日動)
評議員・監事	高野 仁一 (米国公認会計士)
評議員・監事	三浦 真澄 (社会保険労務士)
評議員	今村 明代 (鹿児島経済大学)
評議員	金子 信也 (北海道教育大学)
評議員	大森 勉 (リスクLab.)
評議員	饗庭 正 (高槻市教育委員会)
評議員	後藤 茂之 (監査法人 トーマツ)
評議員	才本 武雄 (ユニコーンエス)
評議員	佐久間 潔 (名古屋女子大学短期大学部)
評議員	杉野 文俊 (元専修大学)
評議員	高木 利勝 (シリウス リスクファイナンス研究所)
評議員	田邊 朋子 (オールエムアイ)
評議員	羽原 敬二 (元関西大学)
評議員	平岡 豁 (大阪府防犯設備士)
評議員	松永 光雄 (東洋大学)
評議員	山川 雅行 (大阪観光大学)
評議員	和久井憲子 (ニューヨーク州弁護士)
評議員 (新任)	松田 千恵子 (首都大学東京)
評議員 (新任)	恩蔵 三穂 (高千穂大学)
評議員 (新任)	森 明人 (東北福祉大学)
評議員 (新任)	竹川 享志 (中京大学・事業構想大学院大学)
評議員 (新任)	中山 実郎 (鳥取環境大学)

議案2：2022年度事業経過報告

- (1)2022年4月15日 学会誌『危険と管理』第53号 発行
- (2)2022年6月11日(土) 関西部会 関西大学 高槻ミュージーズキャンパス
上田和勇編著『復元力と幸福経営を生むリスクマネジメント』各章執筆者が担当した章について報告
- (3)2022年9月23日(祝) 第47回全国大会
東京エレクトロンホール宮城を発信地にZoomで開催 統一論題「東日本大震災10年」
- (4)2022年12月10日(土) 関東部会 SRM学会と合同 幸福経営フォーラムと合同
- (5)その他行事
主催行事
2022年7月22日「フランス映画に学ぶリスクマネジメントとその可能性」
東京・日仏会館
後援行事
10月31日「事業承継を考える日仏公開討論会」気仙沼市役所 ワンテン庁舎ホール
11月2日「第2回中小企業・ファミリー企業の事業承継日仏シンポジウム」東京・日仏会館
11月18日「フランスのヘルスケア分野のデジタルアート」名古屋・Zoom
11月23日 黒田正宏講演会「プロ野球に学ぶリスクマネジメント」関西大学高槻ミュージーズキャンパス
2023年3月24日「第3回中小企業・ファミリー企業の事業承継日仏シンポジウム」大阪俱樂部ホール

議案3：入退会（2022年6月以降）

入会9

- 長谷川浩司（国際航業）推薦者 高野 大森
井上 敦之（三井住友海上）推薦者 亀井 桑名
林田 睦（ウッディ・アンド・カンパニー）推薦者 亀井 松下
井坂 康志（ものづくり大学）推薦者 上田 小林
深川 博志（豊田自動織機）推薦者 亀井 松下
大野 雅人（アクサ生命保険）推薦者 亀井 桑名

田嶋 真弓（専修大学） 推薦者 上田 小林
椎葉 克弘（元オリコン 昭和音楽大学、代々木アニメーション学院）
推薦者 八木 亀井
深山 敏郎（ミヤマコンサルティンググループ） 推薦者 亀井 松下
退会 7 松本 章 山野井良民 池田耕一 川本明人 ドイツ日本研究所
ユニコーンエス 南方哲也

議案4：学会賞

日本リスクマネジメント学会賞（亀井利明賞）

上田和勇 編著 小林守・高野仁一・岩坂健志・田嶋真弓著

『リスクマネジメント視点のグローバル経営 ―日本とアジアの関係から―』（同文館出版, 2023年）

日本リスクマネジメント学会 優秀著作賞

桑名謹三『環境政策と責任保険』（関西大学出版部, 2023年）

その他 候補作を検討する。

議案 5 :

2022年度 収支計算書 (2022年 4月 1日～ 2023年 3月31日)

日本リスクマネジメント学会 2022年度 (令和 4) 収支計算書
2022年度 (令和 4年度) 2022年 4月 1日～ 2023年 3月31日

		2022年 3月31日 ゆうちょ銀行口座残高	2,757,217
支出の部		収入の部	
学会誌『危険と管理』第54号 印刷 発送	592,603	繰越金	2,757,217
関西支部会 (6/11) 開催費 (会場費・配布書籍・弁当)	55,038	過年度会費 (9件)	63,000
主催行事 (7/22 日仏会館) アルバイト	7,000	2022年度会費 (137件)	959,000
第47回全国大会 (9/23) 会場費 宮城県文化振興財団	41,200	2023 年度会費 (6件)	42,000
第47回全国大会 (9/23) 開催費用 送金 東北福祉大学へ (参加者全員にお弁当支給など)	140,000	賛助会費 (9件)	270,000
第47回全国大会 (9/23) 特別講演謝礼 及川洋	50,000	入会金 (8件)	24,000
第47回全国大会被災地ツアー (9/24) バス	83,230	査読料 (5件)	50,000
賞状	7,480	全国大会開催費用 残額返金	30,000
発送 封筒	94,534	学会誌 販売	46,050
関東支部会 (12/10) 開催費用 合同開催によりSRM学会へ	51,012	日本経済学会連合謝礼 (動画提供他)	30,000
交通費 (6/6 監査時) 中居監事	3,120	検定料 銀行業務検定協会	40,800
経営関連学会連絡協議会 年会費	30,000	寄附金 吉川吉衛	20,000
ホームページ管理費	105,600		
振り込み手数料 ゆうちょ銀行	2,145		
次期繰越金	30,69,105		
次期繰越金を除いた合計支出金額	1,262,962	前期繰越金を除いた合計収入金額	1,574,850
支出合計	4,332,067	収入合計	4,332,067
		2023年 3月31日 ゆうちょ銀行口座残高	3,069,105


議案6：監査報告

2023年6月12日 関西大学 東京センター 中居芳紀 監事

監査報告書

2023年6月12日

日本リスクマネジメント学会
理事長 上田 和勇 殿

監事 中居芳紀 

2022年度（令和4年度）の監査結果を、本報告書にて報告いたします。

本報告書作成日において、収支計算書と証拠書類、および郵便事業会社口座残高との突合せ等を行い、収支計算書記載の残高は適正であるものと認めます。

以上

議案 7 : 2023年度 予算案

2023年度予算案 (2023年 4 月 1 日～ 2024年 3 月31日)

収入の部

2022年度からの繰越金	3,069,105
個人会費	980,000
賛助会費	240,000
査読料	80,000
入会金	30,000
学会誌販売	10,000
合計	4,409,105

支出の部

会報	580,000
賞状	10,000
経済学会連合	60,000
(* 2022年度分支払いが2023年 4 月以降に遅延したことに伴う)	
経営関連学会連絡協議会	30,000
WEB管理	105,600
第48回全国大会補助	80,000
特別講演謝礼	50,000
フォーラム補助	80,000
送料	80,000
査読者謝礼	100,000
(* 2022年度分支払いが2023年 4 月以降に遅延したことに伴う)	
振込手数料	3,000
小計	1,178,600
2024年度への繰越金	3,230,505
合計	4,409,105

審議事項8：今後の予定 統一論題

9月30日（土）第48回全国大会 創立45周年記念大会

阪南大学 あべのハルカス キャンパス

統一論題：企業リスクマネジメント研究の45年

11月25日（土）10：00-12：30 関東部会 兼 関西大学 東京センター

2024年度 春 関西部会 秋 関東部会

秋 第49回全国大会 東京 文教大学

◎日本リスクマネジメント学会 2023年度 関西部会

●日 時：2023年6月17日（土）13：00～16：25

●場 所：関西大学 社会安全学部 高槻ミュージックキャンパス M706教室

*Zoomとのハイブリッド開催

会員出席者56人（会場23人 Zoom33人）

会員外3人 大学院生3人 学部生31人

合計 出席者93人（会場60人 Zoom33人）

* 関西大学名誉教授の安部誠治会員の特別報告会を開催した。安部名誉教授は関西大学の副学長当時、当学会本部がある関西大学社会安全学部を構想された。鉄道安全管理研究の第一人者で、福島第一原子力発電所の事故など、様々な事故調査委員会委員を歴任された。1998年に監著『鉄道事故の再発防止を求めて』により、日本リスクマネジメント学会優秀著作賞を受賞されている。他に研究報告3件と展示解説を行った。

プログラム

13：00～13：05 開会の辞 日本リスクマネジメント学会 理事長 上田和勇
研究報告会

13：05～14：05 特別報告 安部誠治（関西大学 社会安全学部 名誉教授）
「鉄道事業のリスクマネジメントと事故防止」

14：05～14：40 「スキル・マトリックス開示による社外取締役のスキルと
経営戦略の整合に関する研究—地域銀行の調査をとおして—」

長谷川浩司（国際航業株式会社）

休憩

14：50～15：25 「現代的风险マネジメントとマーケティングの理論的関

係に関する考察—古典からの研究の発展経緯と今後の可能性—

松下幸史朗（阪南大学）

15：25～16：00 「働き方改革「病気の治療と仕事の両立」に係る現状」

渡邊容子（明治大学）

16：00～16：15 事務局より（井上喬名誉会員追悼・会員新刊紹介・創立
45周年記念第48回大会連絡）

16：05～16：20 閉会の辞

日本リスクマネジメント学会 副理事長 亀井克之

終了後 交流会 PLUTO

◎日本リスクマネジメント学会 理事会

2023年9月30日 12:00-12:20

日本リスクマネジメント学会第48回全国大会・創立45周年記念大会 開催時
あべのハルカス25階「会議室E」

出席理事 9名 委任状 5通

以下の議案を承認した。

議案

2024年9月28日に文教大学において第49回全国大会を開催する。

午前の部において、上田和勇会長のご紹介により関東方面の会員の自由論題報告を行う。

午後の部の統一論題を「アートとリスクマネジメント」とする。

◎日本リスクマネジメント学会賞 審査報告書

審査報告書

上田和勇編著『リスクマネジメント視点のグローバル経営
—日本とアジアの視点から—』

同文館出版 2023年3月30日発行 全175頁

審査員 戸出正夫（元白鷗大学教授）

本書『リスクマネジメント視点のグローバル経営—日本とアジアの視点から—』は日本リスクマネジメント学会理事長・上田和勇専修大学名誉教授が編著者となり、多様なリスクの視点から6名の学者と2名の実務家により執筆され刊行されたものである。

本書の特徴の一つはその多彩な執筆者にある。6名の学者の専門領域はリスクマネジメント論、保険論、国際経営論、金融論、企業の社会的責任論、多国籍企業論、国際関係論、ASEAN経済論などであり、実に多彩である。また2名の実務家のうちの一人はプライスウォーターハウス会計事務所（米国）や外資系グローバル企業などでの勤務経験があるとともに博士学位も有しており、コーポレートガバナンスの専門家といってもいい。もう一人の実務家は国立台湾大学への留学、2度にわたる香港大学への短期留学の経験から、中華圏のインフラやビジネス、観光に造詣が深く、また旅行会社への勤務経験も有している。実に多岐にわたる専

門領域の研究者と実務家が日本とアジアの視点からグローバル経営の問題をリスクとそのマネジメントの視点から考察している。

本書の第2の特徴はその序と第1章および終章に述べられているように、リスクマネジメントの役割を単に損失管理とチャンスマネジメントのみでなく、ステークホルダー特に社員とその関係者のWell-beingと成長にまで拡張して、具体的に考察している点である。最近、健康経営そしてWell-beingという言葉はよく聞かすが、その異同、そして社員の成長にまでリスクマネジメントの機能を発展させて具体的に論じている点は貴重であり非常に興味深い。

本書の第3の特徴は序と終章、そして5部構成による11の章でできている本書の構成と、対象としているリスクの多様性と現代性にある。

その内容は次の通りである。

序 グローバル・ビジネスにおけるリスクマネジメントの視座と本書の構成（上田和勇）

第1部 グローバル経営における人的資産のリスクマネジメント

第1章 社員のwell-beingのリスクマネジメントと経営管理（上田和勇）

第2章 海外経営のパートナーシップとリスクマネジメント（小林 守）

第2部 グローバル経営におけるガバナンス

第3章 グローバル経営の多様性リスクとガバナンス（高野仁一）

第4章 グローバル経営におけるCSRとリスクマネジメント（岩坂健志）

第3部 グローバル経営におけるオペレーショナル・リスクマネジメント

第5章 アジアのグローバル・サプライチェーンとリスクマネジメント（池部亮）

第6章 グローバルアライアンスとリスクマネジメント（小林 守）

第7章 アジアの地政学リスクマネジメント—台湾の市民参画型産業発展モデル—（田島真弓）

第4部 業種別グローバル・ビジネス・リスクマネジメント

第8章 日本の製造業のリスクマネジメント—川上産業の競争力とグローバル・サプライチェーン—（田島真弓）

第9章 アジアの旅行業とリスクマネジメント（小林 慧）

第5部 グローバル・ビジネス・リスクマネジメント視点からのアジア貿易・投資

第10章 アジアのFTAの現状とリスクマネジメント（助川成也）

第11章 アジアの直接投資と海外拠点問題のリスクマネジメント (小林 守)
終章 グローバル・ビジネスにおけるwell-beingカンパニーの事例と示唆 (上田和勇)

以上の章立てからも分かるように、本書はリスクマネジメントを単に損失及びチャンスマネジメントのみではなく、人の成長にまで拡張しているところに特色があるといえよう。そして人的資産のリスクマネジメントについて考察している点やグローバル視点でのガバナンス、さらにオペレーショナル・リスクのマネジメントという視点、製造業とアジア観光業の業種別リスクマネジメントの検討、アジアFTAの現状とリスクマネジメントなどの考察を行っている

考察対象のリスクも人的資産リスク、他者との協力関係に関するリスク、M&Aリスク、CSRリスク、サプライチェーン・リスク、地政学リスク、観光業のリスク、アジアの貿易・投資リスクなど、アジアを中心に多彩で現実に今問題となっているリスクとそのマネジメントが考察されている。

本書の第4の特徴は多くの事例による考察とコラムの掲載により、理論をさらに具象化して読み手の関心を深めるとともに、本書全体にわたり分かり易く考察されている点である。このような論述は、理論のみならず、実務にも裨益するところ大であろう。

国際経営において損失とチャンスを最適化させ、人の成長を促すリスクマネジメントのポイントを考察している本書は、多様な文化との共生が求められる現在、日本とアジア諸国とのグローバル経営において、上に示した多様な視点から分かり易く解説しており、保険関係者のみならず学生、ビジネスマンにも広く推奨できる良書である。

このように有用な研究内容を含む本書ではあるが、欲を言えば斬新な切り口であるWell-being視点からのグローバル・リスクマネジメントの各章において、具体的事例の展開がもう少し欲しいところであった。

このような要請点を残すものの、本書は誠に意欲的、且つ、示唆に富む内容となっており、当該領域の研究として高く評価されるべきものと考えている。

ここに心からなる賛辞をお送りしたい。

結論

本書は日本リスクマネジメント学会賞に値する著書であると思料する。

2023年8月4日 戸出正夫

◎日本リスクマネジメント学会 優秀著作賞 審査報告書
審査報告書

桑名謹三著『環境政策と責任保険
—事後・事前的措置としての経済効果の定量分析』

関西大学出版部2023年1月25日発行

審査員 後藤茂之

本書は、関西大学社会安全学部の桑名謹三准教授が、環境汚染賠償責任保険を活用した環境政策について、応用一般均衡モデルを使って定量的に分析・評価した研究である。

本書の「おわりに」で著者が本テーマに長年抱いていた問題意識と経緯を知ることができる。また「はじめに」に環境政策と責任保険の関係と意義が簡潔に説明されており、読者には、本テーマへの有用な導入となっている。本書の構成は次の通りである。

はじめに

- 第1章 リスクの定量化と保険料、保険サービス
 - 第2章 責任政策評価モデルの構造とデータセット
 - 第3章 純粋な民間保険による政策の評価
 - 第4章 政府からの補助金付保険による政策の分析
 - 第5章 同様の政策を環境税で行った場合の分析
 - 第6章 自動車大気汚染への環境保険の適用と、改善効果の分析
- 終章、あとがき

環境リスクに対する保険機能の経済的優位性と現実的課題については、例えば、アスベストや大気汚染に伴う環境悪化問題に関連して検討された、ポール・フリーマン、ハワード・クンルーサーによる『環境リスク管理—市場性と保険可能性』（齊藤誠、城之内美樹訳、2001年、勁草書房）の中で体系的に整理されているように、環境リスクに対する保険の活用はこれまでも重要なテーマとなってきた。

本書は、リスクの処理として経済合理性を発揮する保険の機能を活用することによる環境リスク政策として、環境汚染化学物質を排出するリスク産業に属する企業に環境汚染賠償責任保険の手配の義務化が日本経済にどのような影響を与えるのかについて一般均衡モデルを用いて分析・評価することが主たるテーマと

なっている。ここで、保険付保の強制は、潜在的加害者による事前的措置（防災・減災費用）+事後的措置（被害者救済としての損害賠償責任）=社会的費用を最適化する手段として位置づけられている。賠償責任保険料は、化学工業および非金属からの中間投入財として各製造業の最終価格に反映され、GDPを構成する経済の全要素の均衡（最適化）状況をモデル上でシミュレーションしている。そして本保険政策導入の結果と導入前を比較することによってその効果を分析する内容となっている。

また、強制保険を政策として利用することは、不法行為請求を補償手段とした場合と比較すると容易に想像できるように、補償システムの運営コストを付加保険料という形で可視化し、経済的コストとして分析する視点を提供できるという意味でも有益な方法といえる。

さて、昨今、気候変動や生物多様性問題がグローバルベースで喫緊の社会的課題になり、企業の社会的責任が大きな議論になっている。温暖化への緩和策として、脱炭素化を加速させる炭素税の議論も盛んである。しかし、現在も進行中の温暖化による被害の拡大に対する防災・減災あるいは補償システム（適応策）、とりわけその重要な手段である「保険」の議論が今後さらに深めなければならない。その意味でも本書の研究は、政策担当者や企業の関係者にとって参考になる視点を提供した時期にかなった研究と認められる。

環境リスク一般に言える特徴は、同リスクが抱える不確実性の高さと、分析に利用可能なデータ・情報の不足である。そのため、シナリオ分析を中心とする定性的分析が行われることが多い。本書は、既に一定のデータが積みあがった化学物質の汚染リスクを対象としているものの、環境リスク固有の同種課題を抱える中で定量分析に挑戦している点は特筆すべきで、意欲的な取り組みとして評価したい。

分析においては、産業連関表データ、PRTR（特定化学物質排出移動届出制度）データ、LIME（被害算定型環境影響評価手法）データ、保険業界から入手した保険料試算データを主として活用しているが、これらを意味のある分析とするための著者の努力や工夫が本書の中で丁寧に記述されている。

また、分析における前提、課題や留意点についても多面的に整理・解説されている点も評価すべきである。現在の実務的検討において不確実性とデータ不足を理由に定量分析が先送りになっている現状を踏まえると、本研究において一定の成果にまとめ上げるプロセスや思考方法は、今後のこの種の研究において大いに参考になるものと考えられる。

本書の最終章では、化学汚染リスクの分析を踏まえ、自動車排出ガスによる大気汚染公害について、公害健康被害の補償等に関する法律に基き、自動車排出ガスによる大気汚染に関する環境保険制度の試案を検討し、本分析の汎用性を例示している点も評価しうる。

このように有用な研究内容を含む本書ではあるが、欲を言えば、環境リスク自体が内包する長期的視点からの状況変化を視野に入れた分析（動態的分析）との対比の言及が欲しいところである。今後環境問題に取り組もうとすると、過去のデータの傾向に基づく現在の経済的枠組みを反映したフローモデルによる分析では、例えば、ストックとしての自然資本の変化や企業のビジネスモデルの変革、技術革新の効果といった動態的要素を考慮できていないためである。このため、これらの要素を考慮するため、包括的富の概念、自然資本金などといった検討も並行的に進められている。これらを鑑み、何らかの言及があれば、さらに充実した内容になるものと考えらるからである。

このような要請点を残すものの、本書は誠に意欲的、且つ、示唆に富む内容となっており、当該領域の研究として高く評価されるべきものと考えらる。社会的に非常に関心の高いテーマであるがゆえに、さらなる研究によって、新たな知見を世に問われんことを期待して已まない。

ここに心からなる賛辞をお送りしたい。

2023年6月30日（文責・後藤茂之）

結論

本書は日本リスクマネジメント学会「優秀著作賞」に値する作品であると思料する。

2023年6月30日 後藤茂之

◎日本リスクマネジメント学会 第48回全国大会・創立45周年記念大会

日時：令和5年（2023年）9月30日（土）9：45～16：55（受付9：15～）

研究会会場：あべのハルカス25階「会議室E」（午前の部～昼食終了まで）

あべのハルカス23階 阪南大学 あべのハルカス キャンパス
（午後の部以降）

昼食会場・公開理事会会場：あべのハルカス25階「会議室E」

*Zoomとのハイブリッド形式

懇親会会場：あべのハルカス19階 大阪マリオット都ホテル
「COOKA（クーカ）」

出席者 午前の部 会員 名 会員外 名 Zoom 名
 午後の部 会員 名 会員外 名 Zoom 名
懇親会 名

日本リスクマネジメント学会第48回全国大会・創立45周年記念大会 プログラム
統一論題 企業リスクマネジメント研究の45年
9：15 あべのハルカス25階「会議室E」 受付

午前の部

総合司会 八木良太（文教大学）

9：45～9：50 開会の辞・歓迎の言葉………松下幸史朗

（第48全国大会実行委員長・阪南大学）

自由論題「リスクマネジメント研究の展開」

9：50～10：00 亀井克之（関西大学）司会兼問題提起 10分

リスクマネジメントのフレームワーク

研究報告 各20分

10：00～10：20 村上昭徳（関西国際大学）

金正男暗殺事件に学ぶリスクマネジメント

10：20～10：40 桑名謹三（関西大学）

カーボンニュートラルとゼネコンの中高層木造建築戦略の課題

10：40～11：00 堀越冒和（福山平成大学）

経営者の健康と中小企業のリスクマネジメント

11：00～11：20 村田崇暢（サイネックス）

中小企業のM&Aのリスクとマネジメント

11：20～11：40 森本弘明（メイコウ税理士法人）

経営生命の一般理論

12：00～12：40 昼食・公開理事会

午後の部

- あべのハルカス23階 阪南大学 あべのハルカス キャンパス
- 13:00～13:10 学会賞・優秀著作賞 表彰式
統一論題「企業リスクマネジメント研究の45年」
- 13:10～13:30 司会兼問題提起 上田和勇（会長・専修大学） 20分
統一論題 研究報告 各20分
- 13:30～13:50 尾久裕紀（大妻女子大学）
企業における職場環境をリスクマネジメントの視点で考える
- 13:50～14:10 大森勉（リスクLab.）
ERMと戦略リスクの実践展開 -持続可能性リスク対応への展望-
- 14:10～14:30 三浦崇（京都大学大学院）
店舗展開企業の事業継続計画策定実証研究
- 14:30～14:50 菅原好秀（東北福祉大学）
福祉サービス企業に求められるリスクマネジメント
- 14:50～15:10 石井至（石井兄弟社）
内発的発展論によるまちづくり産業とそのリスク
- 休憩
- 15:20～15:50 統一論題 質疑応答
- 15:50～16:40 国際セッション
司会 奈良由美子（副理事長・放送大学） 各20分
- 15:50～16:10 徐聖錫（釜山経商大学）
韓国企業におけるBCMとリスクマネジメント
- 16:10～16:30 奈良由美子(放送大学)スペート・バトルルガ(モンゴル国立大学)
「パンデミック対応としてのリスクコミュニケーションおよびその組織体制-日本とモンゴルの比較研究-」
- 16:40 閉会の辞 亀井克之（理事長・関西大学）
- 17:00～19:00 創立45周年記念懇親会
大阪マリオット都ホテル「COOKA」 あべのハルカス19階
開会の辞 戸出正夫（常務理事・ソーシャルリスクマネジメント学会会長）
乾杯の辞 上田和勇（日本リスクマネジメント学会 会長）

◎第48回全国大会・創立45周年記念大会 概要 (『保険毎日新聞』投稿原稿)

日本リスクマネジメント学会が第48回全国大会・創立45周年記念大会を大阪あべのハルカス・阪南大学で開催 2023年9月30日(土)



日本リスクマネジメント学会(亀井克之理事長、関西大学)が大阪・あべのハルカス、阪南大学において第48回全国大会・創立45周年記念大会を開催した。実行委員長を松下幸史朗氏(阪南大学)、総合司会を八木良太氏(文教大学)が務めた。





松下幸史郎



亀井克之

午前の部は、あべのハルカス25階会議室で、「リスクマネジメント研究の展開」をテーマにして、自由論題報告が行われた。まず、午前の部の司会兼問題提起を担った亀井克之氏が「リスクマネジメントのフレームワーク」と題して、リスクマネジメント研究と規格の流れを概観する問題提起を行った。

続いて、村上昭徳(関西国際大学)「金正男暗殺事件に学ぶリスクマネジメント」、桑名謹三氏(関西大学)「カーボンニュートラルとゼネコンの中高層木造建築戦略の課題」、堀越冒和氏(福山平成大学)「中小企業における女性後継者の事業承継リスクマネジメント試論」、村田崇暢氏(サイネックス)「中小企業のM&Aとリスクマネジメント」、森本弘明氏(メイコウ税理士法人)「経営生命の一般理論」の各報告が行われた。テロ、国家危機管理から、地球環境問題・SDGs、中小企業の事業承継・M&A、さらには企業経営の一般理論まで、リスクマネジメント研究の進展とひろがりを示す幅広い自由論題の報告会となった。



村上昭徳



桑名謹三



堀越昌和



村田崇暢



森本弘明

午後の部は、阪南大学あべのハルカスキャンパスに移動して行われた。

冒頭に、学会賞授賞式が行われた。2023年度の日本リスクマネジメント学会賞は『リスクマネジメント視点のグローバル経営 ―日本とアジアの関係から―』（同文館出版、2023年）に授与された。これは学会会長の上田和勇氏の編著、会員の小林守氏、高野仁一氏、岩坂健志氏、田畠真弓氏ほかの著作である。日本リスクマネジメント学会優秀著作賞は、桑名謹三氏の『環境政策と責任保険 一事後・事前の措置としての経済効果の定量的分析』（関西大学出版部、2023年）に授与された。

午後の部は統一論題「企業リスクマネジメント研究の45年」を掲げて、研究報告と討議が行われた。統一論題の司会兼問題提起を上田和勇氏が担った。上田氏は、①リスクのグローバル・ガバナンスの視点、②社員や利害関係者のWell-beingを重視するリスクマネジメントの重要性を提起した。尾久裕紀氏（大妻女子大学、精神科医）の報告「企業における職場環境をリスクマネジメントの視点で考える」では、ハラスメントまでには至らない職場のインシビリティ（礼節の欠如）という概念を取り上げ、リスクマネジメントの観点から考察した。大森勉氏（リスクLab）は報告「ERMと戦略リスクの実践展開 -持続可能性リスク対応への展望-」で、企業への具体的な調査に基づき、リスクアペタイト経営とリスク予想システムについて提起した。三浦崇氏（京都大学大学院）報告「店舗展開企業の事業継続計画策定実証研究」は、具体的な事例に基づき、有効なBCP構築について提言した。菅原好秀氏（東北福祉大学）報告「福祉サービス企業に求められるリスクマネジメント」は、理論的考察と豊富な事例がマッチした本大会随一の名プレゼンテーションだった。菅原氏は①福祉サービス企業の職員は、人のために役立ちたい、社会貢献したいという想いが強い、②利益を追求する視点も必要、③正解が見つけにく時代において、人それぞれの幸福を追求でき、多様性を許容する社会の実現が必要だと主張した。石井至氏（石井兄弟社）報告「内発的発展論によるまちづくり産業とそのリスク」は、シャッター商店街の解消策を題材に、地元の産業・歴史をふまえて、地域の人々の主体的な協同によって活性化をはかることを提唱した。統一論題パネルディスカッションでは、幅広い分野からのアプローチで質疑応答が行われた。



上田和勇



尾久裕紀



大森 勉



三浦 崇



菅原好秀



白熱の菅原好秀プレゼンテーション



石井 至

最後に国際セッションが行われた。国際セッションの司会を奈良由美子氏（副理事長・放送大学）が担った。まず、徐聖錫氏（釜山経商大学）が「韓国企業のBCMとリスクマネジメント」について報告した。次に、奈良由美子氏とZoomでウランバトルと繋いで、スペート・バトルルガ氏が（モンゴル国立大学）「パンデミック対応としてのリスクコミュニケーションおよびその組織体制—日本とモンゴルの比較研究—」について共同報告を行った。参加者53名、Zoom参加者30名の盛会で第48回全国大会は終了した。



奈良由美子



徐聖錫



スパート・バトルルガ

参加者は、あべのハルカス19階大阪マリオット都ホテル「COOKA」に場所を移し、1978年（昭和53年）の学会創立から45周年を祝った。祝賀会の冒頭で、学会最古の会員である戸出正夫氏（常務理事、元白鷗大学）が祝辞を述べた。



創立45周年記念祝賀会の様子

◎『保険毎日新聞』上田名誉教授編著の記事

(11) 2023年(令和5年)5月8日(月曜日)

保 険 毎 日 新 聞

(第3種郵便物認可)

20年度の取組み開始から3回目
フードバンク和歌山に食料品等寄贈

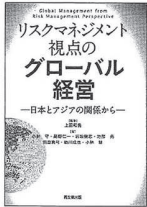
損保ジャパン和歌山支店、JSA中核会和歌山支部、AIRオートクラブ和歌山支部の3団体は、20年度の取組み開始から3回目の「フードバンク和歌山」に食料品等寄贈を行いました。

損保ジャパン和歌山支店、JSA中核会和歌山支部、AIRオートクラブ和歌山支部の3団体は、20年度の取組み開始から3回目の「フードバンク和歌山」に食料品等寄贈を行いました。



左からAIRオートクラブの榊本支部長、フードバンク和歌山の鈴木事務局長、JSA中核会の関元支部長、損保ジャパンの針山支店長

今回の取組みは、1月10日から9月10日まで、AIRオートクラブ、損保ジャパン、JSA中核会が協力して行われ、食料品等寄贈の件数は、合計約1,000箱に達しました。この取組みは、食料品等寄贈の件数は、合計約1,000箱に達しました。この取組みは、食料品等寄贈の件数は、合計約1,000箱に達しました。



『リスクマネジメント 視点のグローバル経営』

本書は、リスクマネジメントのグローバル化をテーマとし、日本とアジアの関係から、リスクマネジメントの重要性を説き、多国籍企業に求められる責任を説く。

【評者】
 戸出 正夫 元白蘭大学教授

『リスクマネジメント視点のグローバル経営』
 —日本とアジアの関係から—
 上田和勇 編著

本書は、リスクマネジメントのグローバル化をテーマとし、日本とアジアの関係から、リスクマネジメントの重要性を説き、多国籍企業に求められる責任を説く。

社員・関係者のウェルビーイング・成長まで含め考察

本書は、リスクマネジメントのグローバル化をテーマとし、日本とアジアの関係から、リスクマネジメントの重要性を説き、多国籍企業に求められる責任を説く。

本書は、リスクマネジメントのグローバル化をテーマとし、日本とアジアの関係から、リスクマネジメントの重要性を説き、多国籍企業に求められる責任を説く。

損害賠償における ●2022年版 (2022年8月刊)

休業損害と逸失利益算定の手引き 齋藤博明 著

●85判・322頁 ●定価4,950円(税込) 送料495円(税込)

ISBN978-4-89293-455-1

●保険毎日新聞社 東京都台東区台東4-14-3
 ●保険毎日新聞社 東京都台東区台東4-14-3
 ●保険毎日新聞社 東京都台東区台東4-14-3

本書は、リスクマネジメントのグローバル化をテーマとし、日本とアジアの関係から、リスクマネジメントの重要性を説き、多国籍企業に求められる責任を説く。

◎日本リスクマネジメント学会 関東部会

兼 アートとリスクマネジメント フォーラム

共催：関西大学経済・政治研究所 関西ファミリービジネスのBCMと東アジア研究班 公開研究会

日時：令和5年（2023年）11月25日（土）9：50～12：30 *午前開催

会場：関西大学 東京センター *Zoomとのハイブリッド開催

9：50 開会の辞 上田和勇（専修大学名誉教授・会長）

司会 亀井克之（関西大学・理事長）

10：00-10：30 アートとリスクマネジメント フォーラム

10：00-10：30 報告椎葉克弘（元オリコン）アートは「未来が見えないリスク」にどうこたえてくれるのか？

10：30-12：00 関東部会

10：30-11：00 大野雅人（アクサ生命）リスクマネジメントの視点から見た東京一極集中是正政策

11：00-11：30 久保俊一郎（東洋大学大学院）暗黙知のBCPの実戦知手法

11：30-12：00 高田真也（早稲田大学）CSV活動情報と情報開示に関する分析—アンケート調査を通じて

12：00-12：30 関西ファミリービジネスのBCMと東アジア研究班公開研究会

12：00-12：30 岸上剛（バンソーロジスティクス）気候変動と中小企業リスクマネジメント試論

交流会（～14：00）

*交流会の際に、新建新聞社・危機管理メディア事業部の中澤幸介氏より、エマージェンシリスクに関して座談会形式で取材を受けた。取材内容は、2023年12月2日付の「リスク対策.com」（会員向けサイト）に掲載された。

◎「リスク対策.com」2023年12月2日 掲載記事内容（中澤幸介氏提供）

◎エマージング・リスクにどう備える◎

◎1組織だけでなく、社会としての対応が必要◎

日本リスクマネジメント学会会員に聞く



上段：左より、亀井氏、戸出氏、深山氏、上田氏

下段：左より、松下氏、長谷川氏、大羽氏

エマージング・リスク（emerging risks：新興リスク）と呼ばれる、これまであまり認識されていなくて急に出現するようなリスクへの関心が世界的に高まっている。10月にはエマージング・リスクの国際規格「ISO31050」が発行された。今なぜエマージング・リスクへの関心が高まっているのか、組織はどう対応していけばいいのか、日本リスクマネジメント学会（理事長：亀井克之関西大学教授）関東部会の会合で、会員に聞いた。

ISO31050では、エマージング・リスクを①組織がこれまでに認識したことも経験したこともないようなリスク、②既存の知識が通用しない、新たな、馴染みのない状況におけるリスク、③著しく進化するリスク、④システミック・リスク（連鎖リスク）、⑤上記新興リスクの組み合わせと定義した。

同学会で会長を務める上田和勇氏（専修大学名誉教授）は、エマージング・リ

スクが注目されている理由について「新型コロナウイルスのように短期間に影響が一気に広がるようなことが起きやすくなっている。AIにしても瞬く間に世界全体に広がった。こうした波及速度が非常に早まっていることに多くの人が危機感を感じているのではないか」と語った。

株式会社ミヤマコンサルティンググループ代表取締役の深山敏郎氏は「ロシアのウクライナ侵攻などは一部の専門家は予測していた事態ではあったが、一般の多くの人にとって未知の事態となった。さまざまな情報が氾濫している今、自分の関心事以外に人々は興味を持たなくなっている。こうした人々の情報への偏重が、未知という状況を生みやすくしているのではないか」と、エマージング・リスクが発生する背景について補足した。

リスクへの対処はどうあるべきか？

一般的な従来も発生していたリスクの管理とエマージング・リスクの管理では何が異なるのか。ISO31050では、エマージング・リスクは新しく経験したことがないリスク故に、データが不十分で、意思決定に必要な検証可能な情報や知識も欠如する。そのため、組織のリスクマネジメントの一環として、知識を重視し、検証可能なデータや情報を蓄積しながらリスクを管理する「インテリジェンスサイクル」の重要性を強調している。また、新たなリスクの特定にあたっては、組織内だけでは知識や経験が不足していることから関係者を巻き込むことや多角的な視点で分析をすること、さらには、リスクの組織への影響について複数のシナリオで分析してみることを、などを推奨している。

上田氏は、「一般的な従来リスクであっても、エマージング・リスクであっても、基本的にはリスク・コントロールと、リスクファイナンスの両面で備えていく意味でフレームは変わらない。ただし、エマージング・リスクは影響が計り知れないほど大きく、いかに正しくリスクを評価し把握できるかが重要になる」とした。また、今後、企業がエマージング・リスクを管理していくには「企業1社で管理できるようなものではなく、ソーシャルリスクとして社会全体で備えていく考え方が必要。地域、行政、国、場合によっては国際的機関など、リスクに応じて連携する枠組みを決めて対策を講じるべき。リスクが顕在化した場合のファイナンスのあり方についても、社会保険のように、社会全体で支え合えるような仕組みが求められる」と強調した。

常務理事でソーシャル・リスクマネジメント学会の会長も務める戸出正夫氏は、「法律学の観点から考えても、将来的にエマージング・リスクが原因で、損害賠

償に発展するようなケースは起こり得る。また、近く発生が懸念される首都直下型地震のような大規模災害についても被害額は桁違いなものになる。やはり、1社では対応しきれない。社会全体の問題として考えていくしかない」とした。

一般社団法人PL研究学会の会長を務める大羽宏一氏（大分大学名誉教授）は、「今年、人権問題がメディアを賑わしているが、法律のような（白黒はっきりとした）問題以外についても、企業は倫理的に正しい価値観で対応できるようにしていくことが大切。法律で裁ききれないような問題について自社の倫理基準をしっかりと作っていかなくてはならない。その際、1企業だけで価値観を決めるのではなく、ステークホルダーなどの意見を広く聞いて多角的な見方をしていくことが大切ではないか」とした。また、AIが急速に普及する中で、「運転者の存在していない完全自動運転車（いわゆるレベル5の自動車）が事故を起こした場合、被害者に対し誰が責任を負担すべきなのかはいまだ明確になっていない。自動車オーナーなのか、自動車メーカーなのか、AI開発メーカーなのか、またはそれらの競合もあり得よう。つまり完全自動運転車の事故が発生する前提に立ち、事前に被害者救済策を策定することが求められる。被害者救済手段としては、国家補償、社会保険、私保険などが挙げられる」とした。

国際航業防災環境事業部の長谷川浩司氏は「例えば気候変動分野ではTCFDに賛同する企業が日本は非常に多く、TCFDガイドにもとづき気候変動リスクの開示も行っている。しかし、多くの場合は、シビアなリスク評価をしないまま、結果的に“リスクの影響は軽微です”というような開示になっている。TCFD提唱者の想いは、長期のリスクに目を向けて欲しいということであり、まずは、リスクに真摯に向き合う、不都合なリスクを受け止めるという姿勢が大切になる」と語った。

上田氏は、「どのようなリスクにしても、そのリスクを多様な利害関係者が客観的に正確に把握・理解し、正しく、偏りの少ない内容と方法で社会に開示していくことが最も重要になる。それができるような枠組みを考えていくことが大切。一言でエマージング・リスクといってもケースによってさまざまな連携の枠組みが考えられる」と指摘した。

理事長の亀井氏は「基本となるリスクマネジメントの考え方として2009年に発効され2018年に改訂されたISO31000がある。この延長線上で新たなエマージング・リスクを管理していくという考え方と、AIなども出てきたし、別のアプローチをとらなくてはいけないという大きく2つの考え方があるように思う。私としては、基本的にはISO31000のフレームで対応していくことが可能だと考えてい

る」とした。

常務理事で事務局長を務める阪南大学教授の松下幸史朗氏は「これまでどんな時代であってもリスクは未知であり、リスクマネジメントの歴史はまさに未知との戦いであった。今後、不確実な時代とも言われているが、そうした中でエマージング・リスクと呼ばれるものに立ち向かっていくには、やはり自分だけで考えるのではなく、多様な機関の連携の枠組みが求められる。同時に、専門性だけでなく広く物事を見るための教養を身に付けていく必要がある。我々大学も一時、専門を極めればよいというような風潮になったことがあるが今は教養の重要性が改めて見直されている。広い視野で、かつ社会全体で備えていくことが必要」と語った。

◎日本リスクマネジメント学会 理事会 *電子メールによる持ち回り開催

2024年3月1日

以下の議案を承認した。

議案1：2024年度の関西部会および会員総会を2024年6月15日土曜日に、関西大学の高槻ミュージーズキャンパスで開催（対面とZoomとのハイブリッド形式）する。